

動 検 時 報

Vol.58-3 2025.06



**海外から肉製品を持って来ないで！
家畜の病気が日本に入ったらでーじ（大変）！**

肉製品持ち込み

動物検疫所Webサイトで
今すぐ確認

JAグループ沖縄 沖縄県 Quarantine 農林水産省 動物検疫所

○ What's New !

沖縄県内で使用している JA グループ沖縄、沖縄県及び動物検疫所連名のポスターデザインを一新しました。

ポスターの掲載場所やこだわりポイントは7ページの記事で紹介しております。

このほかにも動物検疫所では、さまざまなポスターを作成しています。動物検疫所ホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 動検時報 第 58-3 号 目次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◎ 成田支所長就任の挨拶	3
◎ 関西空港支所長就任の挨拶	3
◎ 神戸支所長就任の挨拶	4
◎ 沖縄支所長就任の挨拶	5
◎ トピックス	
・ クンくんと一緒に「茨城空港周年祭 2025」で広報活動してきました！ (成田支所旅具検疫第 2 課)	6
・ 羽田空港ターミナル間連絡バスへのポスター掲示 (羽田空港支所)	7
・ ゆいレール掲載ポスターのデザインを一新しました (沖縄支所)	7
・ 神戸空港に第 2 ターミナルがオープンし、国際チャーター便が就航 (神戸支所検疫課)	8
・ 羽田空港第 3 ターミナルでの CIQP 合同広報キャンペーン (羽田空港支所)	8
・ 宮崎空港における GW 広報キャンペーン (門司支所鹿児島空港出張所)	9
・ 九州の畜産業を守りたい思いを一つにした動物検疫広報キャンペーン (門司支所福岡空港出張所)	10
◎ 動物検疫関連情報	
・ 国内支援～防疫資材の貸付け及び家畜防疫官の緊急派遣実績 (企画管理部危機管理課)	10
・ 違法な野生生物の輸送撲滅セミナーに参加して (感染症対策専門官)	11
・ 令和 7 年度全国家畜衛生主任者会議の概要について (企画管理部企画調整課)	12
◎ 所内情報	
・ 動物愛護センター出身りこ号の動植物検疫探知犬デビュー！ (検疫部管理指導課)	13
・ 稲わら出張～春節～ (検疫部動物検疫課)	13
・ 台湾「動物隔離検疫施設の設計、運営及びバイオセキュリティに関するセミナー」への参加 (精密検査部病理・理化学検査課)	14
・ 男の育児奮闘記 (3 年ぶり 2 回目) (羽田空港支所)	15
・ 動物検疫所の組織構成 (令和 7 年 5 月 1 日現在)	15
◎ 畜産物・動物の輸出入検疫数量実績 (令和 7 年 3 月、4 月) (企画管理部調査課)	17
◎ 動検通信 (中部空港支所長)	20

◎成田支所長就任の挨拶

(成田支所長 増田 真人)



令和7年4月1日付けで成田支所長を拝命しました。今年が入省36年目で成田支所勤務は今回で3回目になります。

1回目の勤務は、入省した平成2年で、2年8か月在籍しました。ターミナルでの携帯品検査2年、係留施設での動物検査8か月で、携帯品、動物及び航空貨物の検査を勉強させていただきました。当時、ターミナルは現在の1ビル1つだけで、業務課は携帯品検査を行う課と動物検査を行う課の2課体制、成田支所の職員数も41人（平成2年動物検疫年報）でした。

2回目の勤務は平成20年5月から1年11か月間在籍しました。1回目の異動後、第2ターミナルの増設及びサル等の検疫業務が動物検疫所に加わったことで、業務課は4課体制となっていました。台湾、韓国での口蹄疫の発生、国内での口蹄疫、BSE、高病原性鳥インフルエンザの発生など家畜衛生を取り巻く状況は厳しくなり、動物検疫探知犬が登場して携帯品検査は受け身から能動的に探す検査にかわりつつありました。また、幼若犬の輸入の増加から犬等の検疫制度が現制度に移行するなど、変化を体験しました。

そして今回が3回目の勤務です。前回に比べ、貨物課の設立及び第3ターミナルの増設で業務課は6課体制となり、成田支所の職員数は90人強で入省時の2倍越えと大きな組織へと発展しました。

令和5年空港管理状況調書によると成田空港（令和5年度）は国際線着陸回数：全空港の

33.5%、国際線乗降客数：全空港の31.8%、国際線貨物取扱量：全空港の54.9%となっており、依然として日本の第1の玄関口としての機能を有しています。また、成田国際空港株式会社広報部発表の「年度別空港運用状況」においても成田空港の国際線の外国人航空旅客数（乗客数＋降客数）が2024年度において2,300万人を超え、過去最高となっています。また、先日税関エリア等の現場を視察したところ、動植物検疫探知犬の活動エリア及び口頭質問エリア（フィールド）も広い印象を受けました。

このように、成田空港は国際線旅客の多い空港であり、広いフィールドを持っています。このような中、国内での豚熱の発生、周辺国でのアフリカ豚熱や口蹄疫などの家畜の悪性伝染病の発生など家畜衛生及び水際検疫を取り巻く情勢が一段と厳しくなっています。このため、効率的・効果的な口頭質問や動植物検疫探知犬による探知活動、関係機関との連携及び罰則の厳格運用により、厳格な携帯品検査を推進していきたいと思えます。また、全国的に取扱量の多い航空貨物の検査もリードしていきたいと考えています。

アフリカ豚熱から日本を守るため、職員との意識共有、個性豊かな個々の職員の多様性を生かした業務運営、関係者と連携しつつ、緊張感を持って水際対策を実施していきたいと思えますので、今後とも皆様の御指導・御協力をお願いします。

◎関西空港支所長就任の挨拶

(関西空港支所長 三上 稚夫)



この度、令和7年4月1日付けで関西空港支所

長を拝命いたしました。

関西国際空港の開港した平成6年に、支所の開設と同時に検疫課に配属されましたが、それ以来の勤務となります。前任地は農林水産消費安全技術センター（FAMIC）札幌センターで、2年ぶりに動物検疫所に戻ってきたところ、懐かしの勤務地というのも感慨深いものがあります。同時に、支所のおかれている現状を踏まえると、水際検疫強化に当たり、次の段階にどのように進むべきか気が引き締まる思いです。

現在の関西国際空港の利用状況ですが、今年1月、国際線旅客数が単月として開港以来過去最高となる229万人を記録しました。国際線到着便数も第1・第2ターミナル合わせて一日200便を超えています。到着便のほとんどがアジア便のため、特に中国を中心としたアジア諸国からの訪日客が多く、大阪、京都、奈良などの観光地へのアクセスの良さや、円安の継続、大阪・関西万博開催（令和7年4月13日～10月13日）などによるインバウンド需要の高まりから、今後もこれらの訪日客が増加するものと予想されます。

近年、アジア諸国ではアフリカ豚熱や口蹄疫といった伝染性疾病が発生していますが、令和2年から令和5年頃までは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、大幅な減便により旅客数も大幅に減少し、その分、旅客の携帯品検査（肉製品等の違法持込みへの検査対応）がしっかりとできていました。一方、到着便が一日200便前後へ戻った場合、旅客数の増加に伴いこれらの伝染性疾病的侵入リスクが高まる（肉製品等の違法持込みも増加する可能性）ため、家畜防疫官に付与された権限（令和2年：家畜防疫官の質問・検査権限の強化等）、増頭された動植物検疫探知犬（令和3年：全国140頭体制）を活用しつつ、しっかりした対応を継続できるよう入念な準備を行ってきました。現在は、上述のとおり新型コロナウイルス感染症発生前どころか、既にそれを上回る数の旅客・便が到着しているため、従前の取組に加えてインバウンドの動向を見つつ、各種検査データを活用した適切かつ効率的な検査に取り組んでいるところです。

支所では携帯品検査のほか、犬猫等や航空貨物の輸出入検査、霊長類の輸入検査等を実施してお

り、国際郵便による肉製品等の違法持込みに対しても検査強化を継続しています。今後は、現在開催されている「水際検疫の強化に向けた検討会」での検討結果を踏まえ、支所として次の段階に向けて最適な対策を検討・実施すべく、そのためにも職員一人一人が対策の意義を理解し実現のために邁進する、そのような組織づくりに注力していく所存です。また、水際検疫に万全を期すためには、関係機関、関係者等の御協力が必要不可欠でありますので、紙面をお借りしましてこれまでの御尽力に深く感謝申し上げますとともに、引き続き御指導・御協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。

◎神戸支所長就任の挨拶

（神戸支所長 栗栖 輝光）



令和7年4月1日付けで神戸支所長を拝命いたしました。

2階建てで約1,000頭の素牛を収容できる施設があった門司支所博多出張所に配属された入省時から数えて、17回目の異動となりました。神戸支所は6年ぶり2回目となります。神戸支所は、支所の他、大阪、米子、岡山、広島、四国の5つの出張所からなる近畿、中四国を含む広い範囲の水際を預かっており、その重責を改めて感じております。

神戸支所のトピックといえば、今年4月（18日）から神戸空港の国際線ターミナルが運用を開始したことです。詳細は別途掲載されていますが、新ターミナル構想の折から知恵を出しあってできる限りの準備を行ってきました。結果的に地

方空港の中では最も多い国際線到着便数でのスタートとなりましたが、円滑な滑り出しとすることができました。新幹線をはじめとする公共交通機関への良好なアクセスなども背景にして、関西3空港の一つとしてだけでなく、関西以西への玄関の一つとしての役割も視野に一層の発展、増便が期待されています。

神戸支所の業務上の魅力の一つと言え、今では当支所でしか目にすることができない畜産物があることかもしれません。個々の防疫官がより幅広い畜産物に関して知見を持っていることは、組織を支える総合力の礎の一つとなるもので大切なことだと考えております。

私自身は、教科書の範囲からやっと出てきた新人の頃から、諸先輩方のみならず、当時関係の皆様が検査の隙間時間に、いろいろなことを教えていただいたこと、そのお陰で検査に必要な知識の広さを知る機会となりました。改めまして、この場を借りて関係の皆様へ感謝申し上げます。その時の言葉の一つ、「あなたのためだけに教えているわけではありません。全国を回られて経験を積んで（いつになるかは分かりませんが）戻って来られた時に（成果として）返ってくるものだと思います。」と何も知らなかった私に言ってくださいました。気が引き締る思いとともに一層前向きに業務に取り組むきっかけにもなった一言でした。

御縁をいただいた関係の皆様をはじめ国民の皆様へ共感いただける、状況の変化に対応した水際対策となるよう支所全体として取り組んでまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

◎沖縄支所長就任の挨拶

（沖縄支所長 瀧上 佐知子）



この度、4月1日付けで、沖縄支所長を拝命いたしました。沖縄は憧れの地でありながら、なかなか勤務する機会に恵まれず、今回が初めての勤務となります。我々、動物検疫所の特徴として、当所に勤務経験のある複数の職員からありがたいアドバイスをいくつか得ての異動でしたので、勤務開始前から楽しみにしていました。今のところ、出張所も含め、支所のムードもよく、職員の皆様へ感謝して、勤務を楽しんでおります。

さて沖縄支所では、昨年度としまして国際便の発着が数便しかなかった新石垣空港で4月から複数便の発着が開始されました。また昨年度より、国際便が回復している下地島空港で週5便から、この夏、毎日到着となる予定です。またクルーズ船やヨットが那覇港、石垣港、平良港等に引き続き到着しており、今後もインバウンドの復活と共に増加が見込まれております。ちなみに令和6年の実績では那覇港（クルーズ船164隻、ヨット等16隻）、石垣港（クルーズ船114隻、ヨット70隻）、平良港（クルーズ船49隻、ヨット等4隻）となっており、特にクルーズ船の令和7年夏季スケジュールでは前年比で石垣港143%、平良港290%と急増が見込まれています。そのような中、旅費の削減を図りつつ、沖縄の畜産を水際で守る取組を一層推進することが急務となっています。今回、沖縄県で畜産関係の方とお会いして初めて、沖縄県で畜産業が大きな産業であること、沖縄県の子牛のほとんどが県外で肥育され、ブランド牛となっていること、アグー（あぐー）

豚のブランドは様々な努力の元に確立したこと等をお教えいただき、まさに水際防疫の最前線であり、我々動物検疫所の職員が守るべき場所であることを強く認識いたしました。

全国的なインバウンドの増加に伴い、那覇空港の国際便も今年のはじめには週 214 便となり、前年比の 140%と堅調な増加となっています。到着便は台湾、韓国、中国、香港等全てアジア便となっています。

先日の夜、国際通りに近いスーパーに行ったところ、レジ前は中国語らしき外国語が飛び交う喧噪状態にあり、思わずレジの方に話しかけたところ、「最近、観光バスが店前に停まるようになり、夜は外国のお客さんが一気に入店して来られます。」とのことでした。これから沖縄のベストシーズンである夏になると、さらにインバウンドのお客さんが増加することでしょう。我々動物検疫所としても、海外から日本での滞在を楽しみにして来られる外国人の方々が、気持ちよく旅行できることを願いつつ、畜産業を守ることが最も重要である立場を忘れないように業務に邁進していくつもりです。このため関係各所皆様の御支援並びに御協力を賜りますよう、よろしく願いたします。

◎トピックス

・クンくんと一緒に「茨城空港周年祭 2025」で広報活動してきました！

(成田支所旅具検疫第2課)

令和7年3月16日に開催された「茨城空港周年祭 2025」に、動物検疫所公式キャラクターの「クンくん」と一緒に参加してきました。

今回の同イベントは、茨城空港の開港 15 周年に合わせて開催されたこともあり、茨城県内の自治体、航空会社、官公庁、自衛隊、ユーチューバー等が参加し、有名ベーカリーが集まる「パン祭り」も同時開催されるなど、大規模なイベントとなりました。

動物検疫所はこれまでも同イベントに参加してきましたが、主催者発表によると今年の来場者数は、例年を大きく上回る 8,900 人でした。

当日はあいにくの雨で、クンくんが出演予定で

あったご当地キャラステージは中止となりましたが、屋内の CIQ 機関の PR ブース前で、他機関のキャラクターと共に広報活動を行いました。来場者との記念撮影に積極的に応じ、お子様連れの来場者を中心に多くの方々と交流することができました。

PR ブースでは、動物検疫制度についてのパンフレットの配布やポスター展示を行いました。来場者に海外からの肉や肉製品の持込み禁止を印象付けられるよう、ソーセージや肉まん等の畜産物のサンプル模型を手にとってご覧いただきました。肉まんのサンプル模型を手にとった方からは「このような肉製品も持って来られないのか。」と驚かれる声や、「今後海外旅行に行く際の参考になった。」とのお言葉をいただきました。

また、犬猫の輸出入検疫制度の紹介のため、マイクロチップを装着したぬいぐるみを使用したマイクロチップの読取り体験を行いました。体験いただいた方には、日本が世界で数少ない狂犬病清浄国であり、海外からの狂犬病の侵入を防止するため厳しい検疫制度を敷いていることを紹介しました。



ブースの様子

今回、多くの団体が合同で行う大規模なイベントであったことに加え CIQ の各キャラクターがそろって広報活動を行ったことで、集客力が増したと考えられました。また、実際に見たり、触れたりすることができる展示内容を通して、多くの来場者に動物検疫制度について知っていただくことができました。

今後もこのようなイベントに他の CIQ 機関と共に積極的に参加し、幅広く国民の皆様にも動物検疫の重要性について周知していきたいと思えます。



着ぐるみ出動の様子

・羽田空港ターミナル間連絡バスへのポスター掲示

(羽田空港支所)

羽田空港には国内線、国際線を含め3つのターミナルがあり、ターミナル間を結ぶ連絡バスが約5分おきに無料で巡回しています。

令和7年3月15日から、連絡バス車内に動物検疫に関するポスターを掲示いただいたので紹介いたします。



連絡バス車内のポスター

私たち羽田空港支所の職員は、24時間365日海外から違法に肉製品が持ち込まれないよう水際の最前線で業務に当たっています。その中で、海外から肉製品を持ち込めないことを知らずにお土産を購入してしまう方、食べきれなかった機内食を持ち帰ろうとしてしまう方が多くいることから、どのような広報が効果的か、若手職員を

中心に広報チームを結成し日々知恵を出しあっています。その中で、まさにこれから海外に行く方が利用する連絡バスにポスターを掲示すれば、より効果的にアピールできるのではと発案がありました。そこで、連絡バスを管轄する日本空港ビルディング株式会社様に相談をしたところ、写真のとおりポスターを掲示いただけることになりました。

掲示するポスターは、移動中にふと目に留まりやすく多国籍の方にも伝わるようイラスト付きで分かりやすいデザインのものを選びました。皆様も、羽田空港にいらした際は、連絡バス内のポスターにもぜひ注目いただければ幸いです。

最後に、ポスター掲示に御協力をいただきました日本空港ビルディング株式会社の皆様方に厚く御礼申し上げます。

・ゆいレール掲載ポスターのデザインを一新しました

(沖縄支所)

沖縄都市モノレール（愛称ゆいレール）は、那覇空港駅（那覇市）～てだこ浦西駅（浦添市）間の約17kmを結ぶ沖縄県唯一の鉄道で、2024年度の乗客数は2,200万人を超え、一日では約6万人が利用しています。近年の著しい乗客数の増加に対する輸送力強化のため、2023年8月から、これまでの2両編成に加えて3両編成が導入されましたが、通勤時間帯は首都圏の鉄道並みに激しく混雑しています。

ゆいレールは、那覇空港利用者のみならず、通勤通学、市内観光等にも利用されていることから、沖縄支所では2021年12月からJAグループ沖縄及び沖縄県と連名のポスターをゆいレール車内に掲示しています。

今般、ポスターのデザインを一新し、2025年4月から掲示を始めました。今回作成したポスターは、背景を黄色にしてより目立つようにし（表紙参照）、那覇空港に実際に持ち込まれることが多い輸入禁止品や沖縄の在来豚のイラスト、沖縄ことうを取り入れ、動植物検疫探知犬が日本の家畜を守るという構成になっています。動物たちの表情にも工夫を凝らしています。ポスターは、2両

編成の各車両中央付近の窓上に掲示されていますので、ゆいレールに乗車された際は御覧ください。

・神戸空港に第2ターミナルがオープンし、国際チャーター便が就航

(神戸支所検疫課)

令和7年4月18日から大阪・関西万博の開催に合わせて神戸空港に新しいターミナル「第2ターミナルビル」が供用を開始しました。これまで神戸空港は海外からのビジネスジェット等のオウンユース・チャーターの運航を除けば国内線が中心の空港でしたが、第2ターミナルビルの運用開始により、包括旅行チャーターの就航が実現し、神戸空港の国内線・国際線を一体的に運用できる体制が整ったことで、国内外からのアクセスがより便利になりました。さらには2030年をめどに国際定期便の就航も予定しており、観光やビジネスの拠点としての発展が期待されています。

第2ターミナルビルは、1階に国内線・国際線の乗降設備が整備され、2階には展望デッキが設置されています。出発エリアと到着エリアが全て1階に集約されているコンパクトな設計により、チェックインから搭乗までの動線が短く、効率的に出発手続きが可能です。搭乗橋は設置されていないことから、乗客はバスを利用してターミナルと航空機との間を移動する方式が採用されています。

国際線では、税関等の一連の手続きがスムーズに行われるための最新の技術が導入されていますが、特に注目すべきは、動物検疫所の特長です。地方空港として初めて、税関構内の天井に自鳴式タグ発報用のアンテナが設置され、検査が必要な旅客の手荷物にタグを装着しておくことで、未検疫での通過を試みた際に警報が鳴るシステムが導入されています。これにより、検査漏れを防止し、効率的な検査の実施が可能となっています。

さらに、動物検疫所のカウンターには放送設備やデジタルサイネージが設置されており、旅客に対して音声と視覚の両面から検疫に関する情報を提供しています。また、旅客の安全に配慮しつつ靴底消毒を確実にを行うため、靴底消毒用マット

を段差なくはめ込むことができる専用スペースを設置しています。また、事務室に隣接して動植物検疫探知犬の控室も設けられており、効率的な探知活動が可能となっています。

供用開始当初から、神戸空港には週40便の国際線が到着しており、主な就航都市は仁川、台北(桃園)、台中、南京、上海(浦東)となっています。これらの都市からの旅客増加に伴い、神戸空港は更なる飛躍を遂げることでしょう。一方で、口蹄疫、鳥インフルエンザ、アフリカ豚熱などの悪性家畜伝染病が発生している国や地域も含まれていることから、私たち動物検疫所はその背後でリスクに応じた水際防疫をしっかりと行い、国内の畜産を守るために全力を尽くしていきます。



神戸空港第2ターミナルビル全景

・羽田空港第3ターミナルでのCIQP合同広報キャンペーン

(羽田空港支所)

令和7年4月25日に、羽田空港第3ターミナル3階出国エリアにおいて、CIQP合同キャンペーンを実施しましたので、その概要を報告します。

羽田空港ではGW等の多客繁忙期を迎えるに当たり、入国時の混雑緩和と必要な検査への協力を求めることを目的として、C(Customs: 税関)、I(Immigration: 出入国在留管理局)、Q(Quarantine: 厚生労働省検疫所、農林水産省動物検疫所及び植物防疫所)に加え、P(Police: 警視庁東京空港警察署)の6つの機関で協力して合同での広報キャンペーンを行っています。今回は

さらに東京国際空港ターミナル株式会社と航空会社2社にもご協力をいただき、計9機関での実施となりました。

冒頭、羽田税関支署長からメディアに向けて本キャンペーンの目的を呼び掛けていただいたのち、各機関のマスコットキャラクターが集合し、記念撮影が行われました。



その後は参加機関職員がマスコットキャラクター達と一緒に出国ロビーを練り歩き、海外に出国される旅行者に対して、入国時のCIQ手続きを案内したリーフレットや広報グッズの配布を行いました。旅行者からはキャラクターとの記念撮影の要望が多く、動物検疫所公式キャラクターの「クンくん」も多くの方と触れ合うことができ、キャンペーンは賑わいの中で終了しました。

当日はテレビ、新聞等のメディアの取材もあり、後日の報道で、パネルで示した「海外からの肉製品は持込禁止」（とクンくん）を映像として取り上げていただきました。動物検疫制度についての呼びかけが、このような映像媒体としてより多くの国民の目に留まることにより、動物検疫に対する理解が広がることを期待します。



今後、夏季休暇のシーズンに入っていきますが、引き続き関係者の皆様と連携し、動物検疫制度の周知に取り組んでいきたいと思っています。

・宮崎空港におけるGW広報キャンペーン

(門司支所鹿児島空港出張所)

令和7年4月23日に宮崎空港国際線到着ロビー及び出発チェックインカウンター前において、宮崎県農政水産部畜産局、みやざき養豚生産者協議会、JAみやざき、宮崎県畜産協会と合同で「GW広報キャンペーン」を実施しました。今年のGWは最長11日間と大型連休を控え、人の動きが活発になると予想されることから、動物検疫の啓発活動として広報用ティッシュを配布しました。キャンペーンには動物検疫所公式キャラクターの「クンくん」も参加し、旅行者及び一般客からの関心を惹きつけ、韓国定期便の利用者ほぼ全員にティッシュの配布ができました。さらには一般の方にも配布し、予定数を超えるティッシュを配布することができました。

今年は宮崎県で口蹄疫が発生してから15年と節目の年です。今も韓国では口蹄疫が発生していることから関係者の熱量は高く、積極的な広報キャンペーンが実施できました。

コロナ禍も明け、円安の影響からインバウンド需要も高まり、宮崎空港及び鹿児島空港でも海外旅行者が増加傾向にあります。家畜伝染病を日本に入れないためにも、輸入できない畜産物の認知度を上げること、持ってこさせないことが重要です。畜産の盛んな宮崎県及び鹿児島県において、関係機関と協力・連携をしながら、今後とも広報活動への取組と水際検疫を徹底して参ります。



・九州の畜産業を守りたい思いを一つにした動物検疫広報キャンペーン

(門司支所福岡空港出張所)

本年3月末に福岡空港の第2滑走路が供用開始し、併せて国際線ターミナルビルがグランドオープンしました。また本年4月から大阪・関西万博が開催され、今年のGWの福岡空港における出入国者は去年の1.5倍(約32万人)と大幅に増加しました。そのような中、4月25日に、全国酪農業協同組合連合会、ふくおか県酪農業協同組合及び福岡県農林水産部畜産課と合同で、総勢17人での動物検疫広報キャンペーンを実施しました。動物検疫所公式キャラクター「クンくん」と、ふくおか県酪農業協同組合のかわいらしい乳牛(ホルスタイン)の「スーパーカウ」の出動があり、賑やかなキャンペーンとなりました。2つのキャラクターが並んだ姿は非常に目立ち、子連れの旅客を中心に多数の方々からの記念撮影に応じながら、参加者一同で海外からの家畜伝染性疾患の侵入防止という気持ちを一つにして、出入国者へ日本への肉製品の持込禁止等について呼びかけました。



旅客への呼びかけ

キャンペーン終了後は、参加者の皆様に主要な水際対策である、靴底消毒マットや動植物検疫探知犬の活動等の携帯品検査業務を見学していただきました。見学中には皆様から様々な御質問を頂き、動物検疫への関心の高さが伺えました。

続いて会議室で参加者の皆様と意見交換を行

いました。海外からの肉製品の持込防止対策や、昨年福岡県で発生したランピースキン病などについて話題に上がり、活発な意見交換が行われました。

全体を通して、家畜伝染性疾患の侵入リスクに対する危機意識を共有することができたとともに、畜産業を守るため、水際防疫と国内防疫の連携を強めることが重要であることを改めて感じました。

最後に今回初めて酪農生産者団体や福岡県の皆様と一致団結して、キャンペーンを実施出来たことに心より感謝いたします。



キャンペーン参加者の集合写真

◎動物検疫関連情報

・国内支援～防疫資材の貸付け及び家畜防疫官の緊急派遣実績

(企画管理部危機管理課)

動物検疫所では、国内において高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の家畜伝染病が発生した際、都道府県の防疫対応を支援するため、全国6か所(北海道・東北支所胆振分室、横浜本所、中部空港支所名古屋出張所、神戸支所、門司支所新門司検疫場及び門司支所鹿児島空港出張所)で防疫資材を備蓄・管理するとともに、家畜の殺処分等防疫作業、疫学調査や自衛隊を含めた関係機関との連絡調整のため家畜防疫官を現地に派遣しています。



防疫資材（大型防疫資材含む）の保管場所

【防疫資材の貸与実績】

令和6年度は、高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い移動式焼却炉（組立型）、医療用廃棄物容器、フレコンバッグ、防疫服、医療用ゴーグル等を、豚熱の発生に伴い電気殺処分機及び医療用廃棄物容器を貸与しました。その他、防疫演習に用いるために泡殺鳥システム及び移動式レンダリング装置を貸与しました。



移動式焼却炉（組立型）の搬出

【家畜防疫官の緊急派遣実績】

令和6年度は、高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、発生農場の防疫措置、疫学調査及び自衛隊又は都道府県庁と農林水産省本省との連絡調整のため、家畜防疫官を延べ95名派遣しました。また、豚熱の発生に伴い、発生農場の防疫措置及び疫学調査のため、家畜防疫官を延べ14名派遣しました。

家畜防疫官の緊急派遣者延べ人数

	防疫措置	疫学調査	連絡調整	合計
高病原性 鳥インフルエンザ	10	50	35	95
豚熱	4	10	0	14
合計	14	60	35	109

（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

動物検疫所では、都道府県が行う防疫演習への参加や大型防疫資材を貸与することを通じて日頃から地方自治体と連携して国内支援に取り組んでいます。

今後も我が国の畜産振興に貢献できるよう、緊急支援チームの人材確保、防疫資材の備蓄・管理、関係者との連携強化を図り、国内防疫支援体制の整備に努めて参ります。

・違法な野生生物の輸送撲滅セミナーに参加して

（感染症対策専門官）

令和7年3月13日、ANAホールディングス株式会社が主催し、成田国際空港株式会社との共催で開催された「2024年度違法な野生生物の輸送撲滅セミナー」に参加し、動物検疫等に関する講演を行ったのでその概要について報告します。

輸出入を規制する国際法や取引に関する国内法に違反して、野生生物を密輸あるいは取引することを Illegal Wildlife Trade (IWT) と呼び、それに関連する費用は年間約3兆円（230億ドル）とも言われています。IWTは環境犯罪とされ、その市場規模は薬物、偽造品、人身売買に次ぐ第4番目の国際犯罪とされています。野生生物の密猟、密輸は国際的にも深刻な犯罪のひとつであり、その解決には世界規模の協力と連携が必要とされ、2017年に40の輸送関連企業や団体が、この課題に対峙するため国際的なタスクフォースを立上げ「バックingham宮殿宣言」を採択しました。この宣言では、署名企業等が、密売者が密猟の現場から市場へ製品を運ぶことを阻止するため、輸送業界全体の基準を引き上げる11の項目を誓約し、世界中の企業や組織との情報共有、トレーニ

ング、技術向上及びリソースの共有等を行うことなどが取り決められています。2018年3月に全日本空輸株式会社（ANA）は日本の航空会社として初めてこの宣言に署名し、日本における違法な野生生物の取引撲滅の取組の一つとして、同年12月にグループ企業の方々を対象にセミナーを行いました。それ以降、継続的に実施を重ね本年度は7回目の開催になると宮田上席執行役員（当時）からの挨拶で説明がありました。初めての開催時は対面での実施だったそうですが、新型コロナウイルス感染症発生以降、オンラインでの実施になり、より多くの社員の方々が全国各地からZoomを通じて参加できることになり、今回はANA社内外の関係者約150名の参加があったそうです。セミナーは、野生生物の取引を調査・モニターする国際的なNGO団体であるTRAFFICのプログラムオフィサー柴田氏、国際航空運送協会（IATA）の日本事務所代表藤原氏、野生動物等の密輸取引を監視する行政機関として東京税関広報聴室課長補佐青野氏から野生生物の違法取引に関することや密輸動物の摘発に関する事例紹介などの講演をいただきました。小職からは動物検疫における感染症リスク管理などのテーマで、動物検疫所の業務としてアフリカ豚熱など動物検疫上重要な感染症とその水際対策の紹介と動物由来感染症について説明しました。受講された方々には、様々な分野の専門家からの講演によりIWTが孕む課題が再認識され、より理解が深まったセミナーになりました。

違法な野生生物取引については、官民連携した取組が重要で、動物検疫の立場から引き続き協力し、その撲滅に微力ながら貢献していきたいと思っています。



・令和7年度全国家畜衛生主任者会議の概要について

（企画管理部企画調整課）

令和7年度全国家畜衛生主任者会議が4月18日に農林水産本省7階講堂において開催されました。この会議は、例年、年度当初に農林水産省、都道府県の家畜衛生担当者及び関係機関が一堂に会し、家畜衛生に関する動向や今後の推進方向についての情報共有や意見交換を行う場です。

冒頭、江藤前農林水産大臣から挨拶があり、日頃より家畜疾病の発生予防・まん延防止のために現場で尽力されている関係者への謝辞が示されたほか、鳥インフルエンザについては、分割管理の推進やワクチン接種の実効可能性等の検討、豚熱については清浄化に向けたロードマップ策定等、水際対策については水際検疫の強化に向けた検討について着手した旨を述べられました。

続いて動物衛生課からは各担当より、今シーズンのHPAIの発生状況・疫学調査結果、野生いのししにおける豚熱及びアフリカ豚熱対策、ランピースキン病に関する対策等について説明がありました。その後、動物検疫所（石川所長）、農研機構動物衛生研究部門（勝田所長）、動物医薬品検査所（荻窪所長）、独立行政法人農林水産消費安全技術センター（古川部長）、本省からは消費・安全局、畜産局、輸出・国際局の関係課から各々の所管事項等について説明がありました。

石川所長からは、アフリカ豚熱や口蹄疫等の我が国への侵入を防ぐための水際検疫強化対策、輸入禁止品の摘発状況及び国内防疫支援対応等について説明を行いました。

アジアにおいてアフリカ豚熱や口蹄疫等の悪性伝染病が継続して発生している中、訪日外国人旅行者は月を追うごとに増加の一途を辿っています。動物検疫所としてしっかりと緊張感を持ちつつ、都道府県、関係省庁及び関係業界等と密に連携し、組織の能力を最大限発揮して水際検疫の警戒態勢を敷いているところです。引き続きの御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

なお、本会議の公開部分の資料が農林水産省のウェブサイトで公表されていますので、こちらを参照していただくようお願いします。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/shuninsha/250422.html>

◎所内情報

・動物愛護センター出身りこ号の動植物検疫探知犬デビュー！

(検疫部管理指導課)

令和6年12月下旬、国内で2頭目となる動物愛護センター出身の動植物検疫探知犬が活動を開始しました。名前はりこ、1歳の雑種の女の子です。

りこ号は、令和6年3月末に広島県の動物愛護センターから動物検疫所にやってきました。動物愛護センターでりこ号に初めて会ったとき、まだ生後4か月齢と子犬ながらも、スタッフと私の前を行ったり来たりしながら、目の前で何度もお座りをし、まるで「私はお利口さんなのよ！」とアピールしているようでした。そして、そのアピールのとおり、2か月間の育成トライアルでは、着々と訓練課題をこなし、その後の応用訓練でもめきめきと力をつけていきました。身体もどんどん大きくなり、出会った頃は片腕で抱っこできていましたが、半年後には両手で抱きかかえるのも大変なほどになりました。性格もすっかりお姉さんになり、一緒に生活していた他の犬たちの面倒をよく見てくれていました。

活動開始を見据えて空港に連れて行くようになった当初は、すごく緊張した面持ちで、周囲の人間や音に敏感に反応していました。それでも、一生懸命お利口に振舞おうとしている姿がすごく健気で、「頑張り過ぎなくて良いよ。」とよく声をかけてあげたものです。

そんなりこ号も徐々に空港の環境に慣れ、旅客の荷物から禁止品を摘発できるようにまでなったことから、正式に活動を開始することとなりました。今では、ペアを組むハンドラーに指示をされるよりも前に自ら荷物を嗅ぎに行ったり、禁止品があると思った荷物の前から頑なに動こうとしないなど、早くも探知活動への意欲を燃やしています。

りこ号の今後の活躍に期待しつつ、ときには「お利口さん」を捨てても良い時間を作ってあげ

たいなと思います。



・稲わら出張～春節～

(検疫部動物検疫課)

中華人民共和国遼寧省大連市にて日本向けの稲わらについて現地における検査及び消毒の確認の業務補助のため令和7年1月21日から5月13日までの113日間出張いたしました。今回は春節の様子について御紹介します。

【とにかく寒かった春節期間】

大連市の緯度は仙台市とほぼ同じですが、想定より大連の冬は寒かったです。平均気温は-0～5℃程ですが、三方向を海に囲まれた地形の影響か冷たい風が吹き続き、体感気温は-10℃程でした。初めて寒さで耳と鼻がちぎれそうという感覚を覚え、フード付きの洋服のありがたみ感じました。外に出ては寒すぎて室内へ避難を繰り返しながら街を探索しました。

【大連市内の様子】

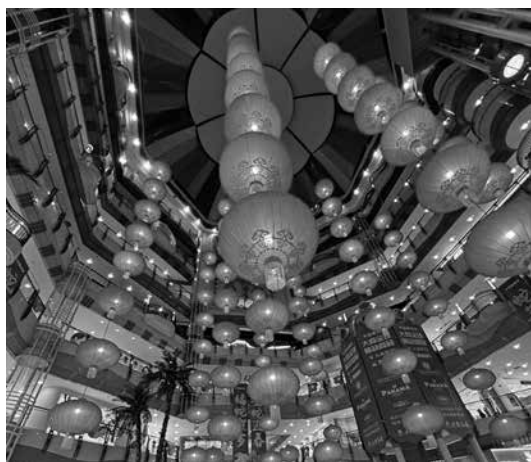
春節は日本の正月と同じく故郷へ帰省し家族でお祝いをするのが一般的のようです。大連は地方から働きに出てきている人が多く、街中は普段よりも静かな印象でした。個人的には寒すぎて外出を控える人も多いのでは？という気もしました。

【赤】

春節期間中に街を歩く中で、特に印象に残っているのは街のあちこちで見かける「赤色」でした。赤い提灯や赤地に「福」の文字が書かれた装飾で

様々な場所が赤色を基調に飾り付けられており、お祝いムードたっぷりでした。現地の方に聞いてみたところ、中国では赤色は縁起の良い色で、良くないことを払う意味を持っているそうです。

中でも、一番驚いたのは靴下や下着売り場で鮮やかな赤色の商品が多く売られていたことです。これには、その年の干支生まれの年男・年女が関係しているそうです。日本では良いイメージのある年女・年男ですが、中国では自分の干支の年を「本命年 (běn mìng nián)」と呼び、あまり縁起の良い年と捉えているそうです。そのため、良くない運を避けるという意味で、年男・年女の方たちはその年赤色を身に着けて過ごすそうです。街中を見てみると赤色の洋服やアクセサリを身に着けている人も多かったです。



赤色の提灯で飾り付けられたデパート

【大晦日の定番】

日本の大晦日といえば年越しそばですが、大連・瀋陽・ハルビンなどがある東北地方では「餃子」が大晦日の定番だそうです。旧暦の大晦日にあたる「除夕 (chúxī)」の日は家族が集まり、餃子を包んで食べて年越しをお祝いするそうです。

日常の昼食等でも餃子を食べる機会がありましたが、日本の餃子に比べ中国の餃子は皮が分厚く、餃子そのものが主食という位置づけでした。そのため中国の人からすると日本の餃子定食は主食+主食の組合せで驚くそうです。

業務はもちろんですが、生活の中で中国の文化や街の様子を知ることができ、とても良い経験となりました。

・台湾「動物隔離検疫施設の設計、運営及びバイオセキュリティに関するセミナー」への参加

(精密検査部病理・理化学検査課)

2025年2月11日から14日までの間、台湾農業部動植物防疫検疫署桃園分署主催のセミナーへ出張しました。参加国は日本と豪州です。

1日目は桃園空港到着後、携帯品検査の現場を見学しました。台湾では、アフリカ豚熱 (ASF) の発生状況に応じて国ごとにリスク評価を行っており、疾病の侵入リスクが高い国からの乗客はX線装置による手荷物検査を受けます。また預け荷物も税関と連携し全てX線検査しており、禁止品の所持を申告しない場合は日本円にして最高約100万円の罰金が科されます。

2日目は本出張のメインである係留施設に関するセミナーに参加しました。各担当者が係留施設と運用について発表する中で、台湾や日本と比べ、豪州の広大な係留施設が印象的でした。セミナーの最後には会場からの質問に対しディスカッションを行いました。

3日目は桃園空港近くの係留施設である観音検疫所を見学しました。施設内には動物種ごとに専用畜舎が設置されています。台湾では豚の需要が高く、家畜としては最も多く輸入されています。その後、水産動物の検疫を行う民間指定施設のX-parkという水族館を見学しました。近海生物の保護・教育施設の役割も兼ねており、大学や桃園市との共同研究も実施しているそうです。

4日目は航空貨物便の検査や輸入動物の臨機検査を担当する貨物部署の紹介も受けました。郵便物の検査も行っており、摘発された肉製品のASF、豚熱の遺伝子検査を実施しているそうです。

本行程を通じて動物検疫の運用や施設設備の違いはあるものの、日本、台湾、豪州に共通して話題になったことは、予算不足、人手不足です。特に公務員獣医師の確保は台湾、豪州ともに日本と同様苦慮しているようでした。そのような困難な状況でも印象に残ったのは、台湾が積極的に他機関または官民連携し、一丸となって動物検疫を推進している気運と、組織内外での役職を問わず積極的に意見を発信する風通しの良さです。また

他国と連携して相乗的に発展しようとする姿勢に感服しました。今後もこのような情報交換の場と交流が継続していくことを心から望みます。

・男の育児奮闘記（3年ぶり2回目）

（羽田空港支所）

農林水産省では、男性の育児への参画が促進されており、男性職員の1週間以上の育児休業取得率85%の目標、併せて、全ての男性職員が1か月以上を目途に育児に伴う休暇・休業を取得できるよう、取組を推進することとされております。動物検疫所においても、男性職員の育児休業取得が推奨されており、制度の活用が進められております。

このたび第3子の誕生に際し、約6か月間の育児休業を取得させていただきました。これは、第2子誕生時に続く、3年ぶり2回目の「男の育児」となります。第2子の際には約2か月間の育児休業を取得しましたが、今回は妻とも十分に話し合いを重ね、より長期となる約6か月間の取得を決断しました。

約6か月間の育児休業取得の希望を職場の上司に伝えた際には、「6か月で大丈夫？ もっと長くても構いませんよ」と、快くご了承いただいただけでなく、さらに延長も視野に入れた柔軟なお言葉をいただきました。育児休業を取得しやすい職場環境に心より感謝しております。

実際、育児休業は出産予定日の1週間前からの取得させていただけたことにより、陣痛時の対応や出産への立ち会いや第1子・第2子を一連で入院中の面会への対応も可能となりました。また、退院後の最も大変な1か月間には特に育児に全力で向き合うことができ、その後の2～6か月間には、第1子・第2子の育児もある中で、比較的余裕をもって楽しく育児に携わることができました。こうした貴重な時間を得られたことに深く感謝しております。

最後に、育児休業へ快く送り出してくださり、また復帰後も温かく迎えてくださった職場の皆様に、改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

・動検検疫所の組織構成

（令和7年5月1日現在）

所長	石川 清康
総務部長	柴田 裕之
庶務課長	丹内 勝浩
会計課長	玉置 敦
調整指導官	中澤 睦美
統括検疫管理官	細野 靖人
感染症対策専門官	梶本 綾子
企画管理部長	國分 玲子
企画調整課長	牧田 利和子
調査課長	土屋 直樹
危機管理課長	吉田 英二
検疫部長	珠玖 知志
管理指導課長	横山 理恵子
動物検疫課長	和田 さち子
畜産物検疫課長	上地 幸子
精密検査部長	浅岡 正弘
微生物検査課長	石塚 久義
海外病検査課長	福原 久江
病理・理化学検査課長	草刈 恵
危険度分析課長	竹川 正興
川崎出張所長	杉浦 千尋
新潟空港出張所長	牧田 昇
静岡出張所長	藤澤 景子
北海道・東北支所	
所長	千葉 昌彦
庶務課長	佐々木 妥之
調整指導官	中尾 哲也
検疫課長	池田 亜季
函館空港出張所長	橋本 行彦
仙台空港出張所長	國分 英行
成田支所	
所長	増田 真人
次長	瀬戸 秀佳
庶務課長	三上 康史
調整指導官	中原 一馬
統括検疫管理官	小平 明宏

— 旅具検疫第1課長	大川 裕人	— 米子空港出張所長	丸川 義文
— 旅具検疫第2課長	粕谷 和史	— 岡山空港出張所長	前田 雅史
— 旅具検疫第3課長	鈴木 章	— 広島空港出張所長	百井 秀樹
— 動物検疫第1課長	鶴飼 寿	— 四国出張所長	大月 寿栄
— 動物検疫第2課長	久保 顕志		
— 貨物検査課長	鈴木 剛史		
— 羽田空港支所		— 門司支所	
— 所長	國保 直子	— 所長	林 政益
— 次長	小林 朋存	— 次長	尾坂 優之
— 庶務課長	刈込 高德	— 庶務課長	石井 正洋
— 調整指導官	鎌川 明美	— 調整指導官	佐藤 一之
— 統括検疫管理官	桐原 志保	— 統括検疫管理官	中島 一雄
— 検疫第1課長	新居 朋昭	— 検疫第1課長	阿久澤 義徳
— 検疫第2課長	尾藤 麻希子	— 検疫第2課長	田中 耕司
— 東京出張所長	福田 雅史	— 検疫第3課長	川邊 俊生
— 中部空港支所		— 博多出張所長	永友 孝昌
— 所長	米川 和宏	— 福岡空港出張所長	吉岡 成美
— 次長	遠藤 明仁	— 長崎空港出張所長	山田 淳志
— 庶務課長	戸田 武史	— 鹿児島空港出張所長	
— 調整指導官	森 一郎		青島 圭介
— 統括検疫管理官	夏目 和良	— 沖縄支所	
— 検疫課長	江崎 由妃子	— 所長	淵上 佐知子
— 小松出張所長	若菜 俊敦	— 庶務課長	菊地 和広
— 名古屋出張所長	平賀 英子	— 調整指導官	青野 幹広
— 関西空港支所		— 検疫課長	鈴木 章則
— 所長	三上 稚夫	— 那覇空港出張所長	田澤 瑞帆
— 次長	河本 俊博		
— 庶務課長	北 忠行		
— 調整指導官	澤田 奈津子		
— 統括検疫管理官	佐藤 隆一		
— 検疫第1課長	酒井 輝明		
— 検疫第2課長	笹田 陽子		
— 検疫第3課長	百瀬 智子		
— 神戸支所			
— 所長	栗栖 輝光		
— 次長	貞末 竜伺		
— 庶務課長	中村 毅		
— 調整指導官	黒田 正爾		
— 統括検疫管理官	岩中 麻里		
— 検疫課長	森田 悦至		
— 大阪出張所長	福富 武		

◎畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（令和 7 年 3 月、4 月）

●輸入畜産物（前年同月比）

3 月分全体の輸入量は前年同月比 90.3%とかなりの程度減少、4 月分全体の輸入量は前年同月比 94.3%とやや減少しました。

●輸出畜産物（前年同月比）

3 月分全体の輸出量は前年同月比 91.2%とかなりの程度減少、4 月分全体の輸出量は前年同月比 100.6%とほぼ横ばいでした。

（単位：KG、アンプル、個）

品目名			輸入		輸出	
			3 月	4 月	3 月	4 月
骨類	骨		774,776	1,060,629	2,000	—
	碎骨		725,078	168,410	—	—
	蹄角		9,547	17,780	223	—
	骨髄		44,406	62,581	—	—
	蹄角粉		18,000	50,000	—	—
	その他の骨		—	—	—	—
	計		1,571,807	1,359,400	2,223	0
肉類	牛肉	冷蔵	17,631,120	18,524,167	450,543	506,146
		冷凍	32,939,244	26,477,398	447,162	476,703
		その他	276	11,242	—	4
		加熱処理	2,409	37,002	—	—
	豚肉	冷蔵	34,073,056	35,258,059	1,169	2,931
		冷凍	54,533,020	58,015,114	173,353	153,386
		その他	5,904	5,904	—	—
		加熱処理	627,517	708,161	—	—
	めん羊肉		1,598,613	2,561,740	—	—
	山羊肉		117,664	84,202	—	—
	鹿肉		3,784	1,350	10	34
	その他の偶蹄類肉		—	—	—	—
	加熱処理その他の偶蹄類肉		—	—	—	—
	ハム		214,733	231,740	—	—
	加熱処理ハム		12,592	33,263	—	—
	ソーセージ		1,415,110	1,649,546	392	32
	加熱処理ソーセージ		775,598	635,006	—	—
	ベーコン		126,887	105,316	—	—
	加熱処理ベーコン		560	613	—	—
	馬肉		277,422	359,435	—	—
	うさぎ肉		1,548	11,835	—	—
	犬肉		—	—	—	—
	家きん肉		44,568,532	46,292,860	205,608	375,577
	家きん加熱処理肉		39,642,117	38,192,586	—	—
	非加熱 その他の肉	牛	594,339	1,106,020	—	41
		豚	320,081	162,284	—	12,604
		家きん	83,698	39,388	39,026	49,075
		その他	86,361	22,892	31,451	23,379
	加熱処理 その他の肉	牛	118,503	112,029	—	—
		豚	3,165,092	3,735,022	—	—
		家きん	3,649,418	3,846,773	—	—
		その他	401,539	586,358	—	—
	計		236,986,738	238,807,305	1,348,714	1,599,912
臓器類	牛臓器		96,247	81,945	35	31
	豚臓器		29,594	58,215	2,000	100
	その他の偶蹄類臓器		30,711	3,196	16	—
	加熱処理牛の臓器		—	—	—	—
	加熱処理豚の臓器		—	—	—	—

品目名		輸入		輸出	
		3月	4月	3月	4月
臓器類	加熱処理その他の偶蹄類臓器	—	—	—	—
	偶蹄類以外の臓器	33,349	19,372	1,368	1,128
	消化管等	2,890,585	2,254,528	1,526	2,871
	加熱処理消化管等	—	—	—	—
	ケーシング	311,822	377,987	—	—
	脂肪	3,000,226	2,616,572	—	—
	非加熱その他の臓器	5,132	6,739	—	—
	加熱処理その他の臓器	—	—	—	—
	加熱処理家きん臓器	265,723	299,030	—	—
	加熱処理その他の家きん臓器	6,115	1,970	—	—
	計	6,669,506	5,719,555	4,944	4,130
卵類	殻付卵	209,368	685,880	1,514,474	1,715,549
	液卵	534,180	568,598	—	700
	その他の卵	81	9	11,915	27,158
	計	743,628	1,254,487	1,526,389	1,743,407
皮類	牛皮	2,012,537	2,133,861	987,191	1,550,852
	豚皮	144,454	29,492	5,134,476	5,397,587
	めん羊皮	—	14,169	—	—
	山羊皮	—	—	—	—
	鹿皮	30,420	48,037	—	—
	その他の偶蹄類の皮	—	—	—	—
	馬皮	55,819	5,185	—	—
	うさぎ皮	35,280	6,720	—	—
	犬皮	—	—	—	—
	その他の皮	—	—	—	—
	計	2,278,510	2,237,464	6,121,667	6,948,439
毛類	牛毛	—	—	—	—
	豚毛	1,300	1,625	—	—
	羊毛	—	—	—	—
	山羊毛	3,270	14,489	—	—
	鹿毛	—	—	—	—
	その他の偶蹄類の毛	5,025	3,405	—	—
	馬毛	1,125	2,030	—	—
	うさぎ毛	800	—	—	—
	羽毛	61,531	54,395	43,333	36,360
	犬毛	—	—	—	—
	その他の毛	—	—	3,092	3,244
	計	73,051	75,944	46,425	39,604
乳製品類	チーズ	20,794,216	22,980,691	23,106	1,266
	バター	1,419,526	781,127	37	23
	偶蹄類動物の飼料用乳製品	5,826,666	1,990,621	—	—
	その他の乳製品	5,250,142	5,406,120	267,840	208,516
	計	33,290,551	31,158,559	290,982	209,805
ミール類	血粉	275,502	174,957	—	—
	肉粉	—	20,402	—	—
	肉骨粉	—	—	—	—
	皮粉・羽毛粉	—	—	—	—
	計	275,502	195,358	0	0
その他	精液（アンブル）	71,129	61,381	—	—
	受精卵（個）	32	70	—	—
	ふん・尿	0	—	—	—
	計	0	—	—	—
わら類	穀物のわら	17,778,880	20,286,100	—	—
	飼料用の乾草	—	—	—	—
	その他	72,760	96,710	—	—
	計	17,851,640	20,382,810	0	0
総計		299,740,932	301,190,882	9,341,345	10,545,297

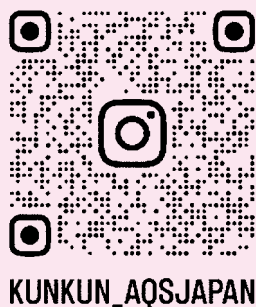
※ 解放重量ベースの速報値

(単位：頭、羽、個、群)

動物名	用途	輸入		輸出	
		3月	4月	3月	4月
牛	乳用繁殖用	—	—	—	—
	肉用繁殖用	—	—	—	—
	肥育用	—	—	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
豚	繁殖用	25	170	—	—
	その他	—	—	—	—
めん羊		—	25	—	—
山羊		—	—	—	—
その他の偶蹄類		—	—	—	—
馬	繁殖用	1	—	—	—
	乗用	9	19	3	—
	競走用	21	55	24	8
	肥育用	494	338	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
その他の馬科		—	—	—	—
うさぎ		305	241	58	166
初生ひな（鶏）		13,084	29,469	—	—
初生ひな（その他）		—	—	—	—
種卵（個）		—	—	—	—
蜜蜂（群）		800	—	—	—
指定検疫物以外の動物				9,701	9,605
犬		933	846	721	700
猫		603	514	461	400
あらいぐま		—	—	—	—
きつね		—	—	—	—
スカンク		—	—	—	—
サル		—	—		

※ 解放頭羽数ベースの速報値

動植物検疫探知犬デビューしたりこ号（本誌 12 ページ）については動物検疫所公式 Instagram にも掲載しております。このほかにも動物検疫制度について、画像や写真を使用しながら紹介しています。是非一度、アクセスとフォローをお願いします。



◎動検通信（中部空港支所長）

中部国際空港は平成 17（2005）年 2 月 17 日に愛知県常滑沖の海上に開港した国際拠点空港で、愛称で「セントレア」と呼ばれています。今年で開港 20 年となり、中部国際空港株式会社のホームページの特設サイトでは、20 年間の様々な出来事が紹介されています。そのような節目となる今年の 2 月 17 日に、国土交通省より滑走路増設工事の着工を許可したとの発表がありました。供用開始予定の 2028 年 3 月 31 日に向け本年 4 月 1 日に着工されており、完成後は 24 時間運用可能となり、発着能力は現在の 1.2 倍になることから、地元経済界からも期待されているところです。

さて、当中部空港支所事務所は中部国際空港内の CIQ 棟の 5 階にあり、空港の南側から滑走路にアプローチしている航空機を遠くに見ることができます。最近、着陸態勢に入っている航空機を見るたびに、以前、パイロットの方に伺ったお話を思い出します。それは、現代の旅客機や貨物機は高度に自動化され、最低 2 名のパイロットで運航が可能になっており、機長と副操縦士は、出発準備から到着後にエンジンを停止させるまでの間、協力して航空機を運航している。その際に大切なのはクルー・リソース・マネジメント（CRM）により 2 名のパイロットが最高のパフォーマンスを発揮する状況を作り出すことであると教えていただきました。

CRM は航空分野で開発された概念で、安全な運航のために利用可能な全てのリソース（人的資源や情報など）を有効活用するという考え方です。一例を上げると、副操縦士は目上の機長に対して躊躇なく助言・忠告を行い、機長は真摯に受け止め意思疎通を図ること等があります。近年は航空業界だけでなく、ヒューマンエラーが安全に大きく関わる医療、海運、原子力発電所等の分野にも CRM の考え方が広がっています。

日常業務の中で、ヒューマンエラーを防止したいと考えたときに、御興味がありましたら CRM の考え方の導入を検討してみるのも良いと思います。

最新のトピックスは
こちらへ➡

動物検疫所のホームページ <https://www.maff.go.jp/aqs/>
農林水産省のホームページ <https://www.maff.go.jp/>
WOAH のホームページ <https://www.woah.org/en/home/>

動検時報はこちらにも掲載しています。



編集・発行 農林水産省
動物検疫所
横浜市磯子区原町 11 - 1
(045) - 751 - 5921（代表）